

## 高齢者との交流を日常に…

### 1. 目的と経緯

私たちのくらしは、多様な人々との関わりの中で成り立っている。しかし、新型コロナウイルスの影響で、ここ数年はこの関わりが大きく制限された。保育園も例外ではなく、本来こどもたちにとって大切な「人との関わり」が断たれた。多くの人に触れることで、多様な在り方を知ることができる。幼児期に多様なモデルに出会えることは、子どもたちの育ちにはとても大切なことであると感じている。新型コロナウイルスの制限が緩んだことをきっかけに、園と併設しているデイサービスとの交流を活発に行うことにした。今までは、形式的に行っていたデイサービスとの交流を日常化することで相互に良い影響を期待した。

### 2. 内容

- ・毎日ラジオ体操の実施
- ・合同誕生会
- ・季節行事の共同開催
- ・合同避難訓練



毎日のラジオ体操



園児の送迎



夏祭り



運動会



節分の豆まき

### 3. 成果と課題

デイサービスとの交流を通して、こどもに大きな変化がみることができた。それは、日常の中でふとでる言動だ。手をつなぎながら園庭に送迎するとき高齢者のペースに合わせて歩く姿。車いすを止めればブレーキをさっとする姿。「段差あるから気を付けてね。」「これ、おばあちゃんたちに見せに行こう！」など。こどもが体験を通して自ら考え、相手を思いやり、他者を意識する。そんな姿はこれから生きていくうえで人と人との関わる重要な部分が育っているのではないかと思う。まだまだ実践を初めて1年目。今後さらにこの活動が日常化し、さらには地域も巻き込み、地域全体でこどもが育つ環境ができていたら…と思っている。